NIPPOは“皆様のご期待に応える会社”で　あり続けます。



株式会社 NIPPO　代表取締役社長

和田 千弘

信頼の回復に向けて

当社系列プラントが納入した工事に設計図書と異なるアスファルト合材が用いられたことについて、取引先をはじめ数多くのステークホルダーの皆様に多大なるご迷惑とご心配をお掛けしておりますこと、改めて深くお詫び申し上げます。

当社は、外部調査委員会（2024年6月5日設置）の「調査報告書」に基づき策定した9つの「再発防止策」を確実に実行してまいります。

また、2026年3月17日、技術検証委員会（2024年7月1日設置）から品質確認試験に関する検証報告書（最終）を受領いたしました。今後は、当該アスファルト合材を用いた舗装の長期耐久性を検証するための試験を実施し、引き続き、技術検証委員会において検証していただくこととしております。進捗および結果について適時公表してまいります。これからも、企業理念に掲げる「確かなものづくり」を実践し、社会から信頼され必要とされる会社であり続けるよう取り組んでまいります。

安全に熱意をもって取り組んでまいります

この道の先に NIPPO

安全作業５つの誓い

重機作業	人との分離を実施したか	ヨシ!
車両後退	誘導合図を確認したか	ヨシ!
土砂崩壊	土止めはしたか	ヨシ!
墜落・転落	安全帯を使っているか	ヨシ!
非定常時作業	装置は止めたか	ヨシ!

建設業や製造業などのものづくりの現場では、危険と隣り合わせであり、現場で働く一人ひとりが安心して働ける安全な職場環境づくりは、何よりも優先されるべき重要な課題です。当社では、日々の作業において「安全作業5つの誓い」を実施しています。「人の命を守る」ための安全確保は、企業が第一に果たすべき責任です。当社は、これからも「安全作業5つの誓い」を確実に実施して、熱意をもって安全に取り組んでまいります。

「持続可能な社会の実現」に貢献してまいります

世界では2030年までに達成すべき「SDGs（持続可能な開発目標）」の実現に向け、具体的な取り組みがあらゆる企業活動に求められています。また、日本政府は「2050年カーボンニュートラル」を宣言し、達成に向けた取り組みとして2030年度の温室効果ガス削減目標を2013年度比46%削減することを表明しました。

当社が企業理念に掲げる「確かなものづくり」の言葉には、安全を第一に環境に配慮し、法令とルールを守り、確かな品質のものを社会にお届けする、という意味が込められています。

当社はこの企業理念に基づき、社会インフラの整備に携わるとともに、資源の再利用・CO_2排出量の抑制といった環境問題の解決につながる様々な取り組みを行ってまいりました。

2024年11月、「TCFD提言に基づく気候関連の情報開示」を行い、2025年5月にSBT認定を取得しました。2030年度までに、Scope1・2の2020年度比49.8%削減、Scope3の2020年度比25%削減を目標に取り組んでまいります。

目標達成に向け、当社が推進してきた中温化合材の販売拡大、合材工場で使用する燃料の都市ガス化や再生燃料の利用、省エネルギー型の設備の導入を実施しています。また、工事施工や材料に関するCO_2排出量の抑制に向けた研究開発に一層取り組み、「持続可能な社会の実現」に向け、これからも積極的にSDGsに貢献してまいります。

社会の一員として歩んでまいります

当社は全国各地に事業所を展開し、地域に密着した事業活動を通じて、社会を支える役割を果たしてまいりました。事故や災害が発生した時は、いち早く道路の復旧に取り組み、社会インフラの回復に貢献することは、当社に課せられた大きな使命であると認識しております。これからも、全国に展開する事業所が地域に根差し、社会インフラを支える体制を維持してまいります。

一方、世界では予防可能な感染症で命を落とす発展途上国の子どもたちが20秒に1人いるといわれています。当社は、未来のある子どもたちを1人でも救いたいとの想いから、NPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会」へ、アスファルト合材販売数量1トンにつき1円を寄付する取り組みを行っています。

当社はこれらの活動を含め、これからも社会の一員として、皆様と共に歩んでまいります。

おわりに

本報告書では、法令遵守に向けた取り組みや事故防止に向けた安全への取り組み、環境に配慮した技術の開発、さらには地域に密着した社会貢献活動など、当社が日頃から行っているCSR活動を、できるだけわかりやすくまとめました。

本書を是非お読みいただき、当社の活動にご理解、ご支援を賜りますとともに、忌憚のないご意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。